

震災瓦礫を処理しなければ
ならないという現実を、まや
かしの“安全”でねじ伏せて
はならない(宮城県石巻市)



ても、細野氏はまず空間線量の測定をし、その後、木くすの測定をするという手順を踏んでいる。よって、測定対象に対して前述のように「特定数の3倍」をかけることが必要なのだが、それを守っておらず、やはり不適切な測定方法と言える。しかも環境省への取材で入手した放射性物質測定結果報告書によれば、細野氏がたびたび計測していた多賀城市の木くすの放射線量は「定置下限値未満」。定置下限値はセシウム134と137で、それぞれ1kgあたり17ベクレル、18ベクレルのため、1kgあたり35ベクレル未満の放射性セシウムが含まれている可能性があるわけだが、2kgで70ベクレル未満、3kgあっても105ベクレル未満と、実験でも判別が困難だった放射線量だったのだ。念のため製造メーカーである富士電機にNHCFの性能を確認すると、「2kgの対象物を測定した時の放射性セシウムの測定下限値で1kgあたり50ベクレル」(広報課)で、放射線量だと100ベクレルに当たる。ただし、こうした低濃度の対象物の測定は「鉛の箱に入れて外部の放射線の影響をほぼゼロにする」(放射線

システム総括部営業技術部)ことが条件という。つまり細野氏がしたような、外部の放射線の影響下にある街頭で、鉛箱による遮蔽もなしにこうした低濃度の廃棄物の測定は不可能ということだ。きちんとした計測値も出ないパフォーマンスで「安全」をPRした理由を環境省に問えば、「放射線濃度は検出限界値未満であり、このため安全性については問題ない」などと意味不明な回答が返ってきた。あらためて連絡し、何度質問の趣旨を説明しても、担当者は同じ返答を繰り返す。要するに答える気がないのだ。一連の測定パフォーマンスがおかしいことを示すもう一つの理由は、計測する意味のない対象に対して実施していることだ。環境省が定めた広域処理の基準では、通常の廃棄物処分場へ埋め立て可能な焼却灰の放射線濃度を1kgあたり8000ベクレルとした。そこから焼却前の廃棄物は「目安」として「1kgあたり200ベクレルを十分に下回る」よう求めている(焼却方式によっては400ベクレル)。その是非にも多くの意見があるのだが、一応は国が自ら定めた「安全」の基準で

ある。「安全」をPRするのであれば、被災地の木くすが高い線量を示しても、フエアに測定してそれが基準を下回ることを街宣活動で証明すべきだったはずだ。細野氏が街頭で繰り返し訴えた「安全」の根拠となるべき測定パフォーマンスで使用した測定機は、正確な判定ができない代物だったうえ、国はあらかじめ木くすを分析し、その事実を知っていながら、PR活動を展開してきた。つまり税金から多額の広告費を使い、まるで事実に基づかないプロパガンダをまき散らしてきたことになる。無論、仮に基準を超える放射線を含む廃棄物をPRに使ったとしても、細野氏による測定方法では判別が不可能だったはずだ。各地で繰り返した「ご心配の方は直接お問い合わせください」との言葉は、どれだけ国民をバカにしたものだったろうか。細野環境相は改めて全国を行脚して、測定パフォーマンスがインチキだったと明かし、無意味だったと詫言べるべきだろう。各自治体が瓦礫を受け入れるか否かは、その後で判断されるべきだ。

取材・文二井部正之(ジャーナリスト)

「一流」にはそれぞれ 人生を変えた一振り、 一球があった。

名うての野球ウオッチャーが
「天才」誕生の瞬間を
読み解く。



二宮清純
Seijun Ninomiya

天才たちの プロ野球

重版出来!

- | | | |
|------|------|------|
| 田中将大 | 中村剛也 | 荒木雅博 |
| 前田健太 | T・岡田 | 田中浩康 |
| 石川雅規 | 中田翔 | 森福允彦 |
| 唐川侑己 | 島山和洋 | 松中信彦 |
| 岸孝之 | 村田修一 | 谷繁元信 |
| | 内川聖一 | 山本昌 |
| | | 宮本慎也 |

好評発売中! 定価980円(税込)
ISBN 978-4-06-217690-3

講談社